

第三学年

# 学年通信

53年2月20日発行

山形県立山形南高等学校

第三学年  
第3号

三年生諸君も卒業式を迎えることになると思うと、今更ながら時の流れの早さに驚いています。「光陰人を待たず」というところか。顧みると、私は諸君の入学式の伝統「高校生活の意義」と「南高の伝統（知徳体の合一）」について述べ、南高に新たな伝統の創造と社会に有為な逞しい青年に成長してほしい意味のこととを期待をこめて話したが、今、卒業式を迎えようとする諸君の胸に去来する懾い出はどのようなものだろうか。入学した当時は、その悦びも束の間教科学習の厳しさと部活動に追われる毎日であったろう。また二年になつてからは生徒会等の諸活動に責任ある仕事を果たし、三年では部活動や生徒行事で立派な成績を上げた今、入試制度最後の年である故の厳しい現実に当面している。



## 卒業生に贈る言葉

学年主任

田中圭吾

### 麦踏みの訓

生活の基礎に誠意を



武田 光興



桜田 清高



三年生諸君の中にも「本当に充実した生活であった」と胸の張れる人、「跳きながらも想い出の多い生活であった」と頼める人、「無意識に過してしまった」という人と、それは千差万別かも知れない。

しかし、伝統に輝く本校での三年の生活体験は諸君の将来の人間形成に大きな自信を与える飛躍へのステップとなることを、私は信じて疑わない。

今後とも諸君には、是非とも所期の目的を達成してほしいこと、また窮屈、難局にあってもたじろうとする諸君の胸に去來する懾い出はどのようなものだろうか。入

人生をこの麦にたとえるなら今君はちょうどこんな苗とみてよいのではないだろうか。この時期に踏まれずして苦境から逃れ、樂を求めていたは次の世代を担うりつぱな社会人にはなれないぞ、と教えることもあるが自分を踏むことも出来る。今のうちに自分を踏みなさい。決して手加減せずに、思いつきり。そして、そこから高い上

げなる力を出そう。いつの日かりつばな糖をつけた人間になつていよ。といふと常に実行している段階ではないが、何度かそれについて経験している。このことが常に実行できると、日常生活の様々な面にも全力であたれるとと思う。

卒業生諸君は、三年間の南高の修学を終え、各人各様の方向へ進むことになる。その各人の今後の日常生活の中で、是非実行してほしいと考えていることがある。それは一日の生活の中で、三度の食事と数回の手洗いと睡眠については、心から、誠心誠意、全力で事にあたつてほしいということである。つまり、食事の時には、心から全力を尽くして食事をとる。それは、心から、誠心誠意、全力で食事をするとはどういうことか？こんなことに全力を尽くすなんて……と思うかもしれないが、その時に自分が食べるものをよく味わって、余計なことを考えずにひたすら食べるようにしてほしい。手洗い通いも同じである。排泄に徹して、全力を傾ける。事後の爽快さを味わってほしい。睡眠についても同じように全力で眠ること。朝の目覚めがすばらしい。

こんなことを勧める小生自身は

ある月刊雑誌に「信ずることと知ること」という一文がのってい。その見出しには「現代は科学的合理主義が万能視され、信ずることが忘れられた。しかし信ずることなくして深くることは出来ない。」とある。本文の冒頭にユリ・ゲラーの念力の話や、ある夫人が、夫が戦場で倒れた夢を見たがそれが正夢であった例につき、いわゆる科学者という人々がこれを頭から否定し、あるいは嘲笑するのみで不思議を不思議として受取る素直な心が少ないので驚くと述べられている。科学者の合理的な考え方がすべてではなく未だ知られない広い自然現象があるのだといふ心を少々失ないつつありますかもしない。採りあげる価値なきものとして、初めから信じようとしている態度でなく、目のおおいを少しあけて考えて見る素直な心をいつも持ち続けて行きたいものと思っている。人と人の交際には、其感や同情だけでなく、忍耐心も求められることを君も心してほしい。

ある月刊雑誌に「信ずることと知ること」という一文がのってい。その見出しには「現代は科学的合理主義が万能視され、信ずることが忘れられた。しかし信ずることなくして深くすることは出来ない。」とある。本文の冒頭にユリ・ゲラーの念力の話や、ある夫人が、夫が戦場で倒れた夢を見たがそれが正夢であった例につき、いわゆる科学者という人々がこれを頭から否定し、あるいは嘲笑す



高内 国吉

## 青春の証

青春には、夢があり、冒険があり、焦燥があり、挫折がある。人生に未熟なために、失敗があり恥がある。それは溢れる野心と欲望の所為であるが、心が純であるから大人のようななまざきがない。



池野 南也

## 蒼穹によせて

天には瑠璃いろの蒼穹があつた。雨は大地をやさしくうるおし、風は梢のあいだを吹きぬけていた。私はもう一度青春時代にかえり頃の幼い自分が懐しい。はるか年月を経た今、あの苦しかった日々が、適度にほろにがく甘く思い起される。

月を経た今、あの苦しかった日々が、適度にほろにがく甘く思い起される。

ゆりかごのうえに夕陽がとどきまでは平安のとおりに抱かれて幾夜ねむったことか。過ぎていつた幼ない日々よ。

やがてきみは追われる人のように人に知の海を泳ぎ、文明の梯子をよじ登り、その白い大脳皮質にはおびただしい記号やコヒートが刻みこまれたのだが――。もうくたびれたかしら。でも、ガレ場から転落し、一時後退を余儀なくされる時もある。だが諸君等の進む行程は、あともどりは許されない。傷つきながらも歯を元気を出して歩こうよ。生きていることのあかしと道標を求めて。ときには百億光年の星のしづくでひからびたところを洗いながら。

君達よ、苦しかつただろう。そしてこれからももつともつと苦し



長谷川 浩司

## 人生の山道

やがてきみは追われる人のように人に知の海を泳ぎ、文明の梯子をよじ登り、その白い大脳皮質にはおびただしい記号やコヒートが刻みこまれたのだが――。もうくたびれたかしら。でも、ガレ場から転落し、一時後退を余儀なくされる時もある。だが諸君等の進む行程は、あともどりは許されない。傷つきながらも歯を元気を出して歩こうよ。生きていることのあかしと道標を求めて。ときには百億光年の星のしづくでひからびたところを洗いながら。

君達よ、苦しかつただろう。そしてこれからももつともつと苦し



庄司 滋夫

## はなむけの歌句八首

私の特に好んでいる短歌と俳句を抄出して、諸君の前途を祝うことをしたい。



高橋 光義

私の青春は苦悩の連続であった。嵐のようないのちが芽ぶいたとき、外觀は灰色一色であった。やつと苦悩から脱出したと思った時、私は既に青春を失なっていた。そして、青春とは本来苦しいものであつたかもしない。採りあげる価値なきものとして、初めから信じて、青春とは本来苦しいものであると悟つたのも、ずっと後になつてからだった。

君達よ、苦しかつただろう。そしてこれからももつともつと苦し

きみのいのちが芽ぶいたとき、天には瑠璃いろの蒼穹があつた。大悲の光は、いまもそこからふりそそぐ。さきめきと忍辱の日日はなお続くとも。

ある日の朝日新聞にある大学の学生の食生活の記事が載った。朝食抜きの一日二食、夜も即席飯で済ます者が50%を越え、専門の栄養士が不合格点をつけた者は70%近くもあったという。食事には毎日三度のリズムがある。成長期に体づくりをやらないで、何時やる積りなのだろう。大学で部活動を行なう者は高校時代より激減するだろう。従って便利な食生活に飛びつき易い。将来の日本を担う青年が抵抗力のないモヤシでは困る。日本には四季がある。冬に寒冷に耐えた雪中の大根を食い、夏に灼熱の陽を吸い込んだ南瓜を食い、春に菜の花、秋に里芋を食う季節感溢れる青果は沢山ある。そ



ある日の朝日新聞にある大学の学生の食生活の記事が載った。朝食抜きの一日二食、夜も即席飯で済ます者が50%を越え、専門の栄養士が不合格点をつけた者は70%近くもあったという。食事には毎日三度のリズムがある。成長期に体づくりをやらないで、何時やる積りなのだろう。大学で部活動を行なう者は高校時代より激減するだろう。従って便利な食生活に飛びつき易い。将来の日本を担う青年が抵抗力のないモヤシでは困る。日本には四季がある。冬に寒冷に耐えた雪中の大根を食い、夏に灼熱の陽を吸い込んだ南瓜を食い、春に菜の花、秋に里芋を食う季節感溢れる青果は沢山ある。そ



う。大学で部活動を行なう者は高校時代より激減するだろう。従って便利な食生活に飛びつき易い。将来の日本を担う青年が抵抗力のないモヤシでは困る。日本には四季がある。冬に寒冷に耐えた雪中の大根を食い、夏に灼熱の陽を吸い込んだ南瓜を食う季節感溢れる青果は沢山ある。そ

う。大学で部活動を行なう者は高校時代より激減するだろう。従って便利な食生活に飛びつき易い。将来の日本を担う青年が抵抗力のないモヤシでは困る。日本には四季がある。冬に寒冷に耐えた雪中の大根を食い、夏に灼熱の陽を吸い込んだ南瓜を食う季節感溢れる青果は沢山ある。そ



う。大学で部活動を行なう者は高校時代より激減するだろう。従って便利な食生活に飛びつき易い。将来の日本を担う青年が抵抗力のないモヤシでは困る。日本には四季がある。冬に寒冷に耐えた雪中の大根を食い、夏に灼熱の陽を吸い込んだ南瓜を食う季節感溢れる青果は沢山ある。そ



う。大学で部活動を行なう者は高校時代より激減するだろう。従って便利な食生活に飛びつき易い。将来の日本を担う青年が抵抗力のないモヤシでは困る。日本には四季がある。冬に寒冷に耐えた雪中の大根を食い、夏に灼熱の陽を吸い込んだ南瓜を食う季節感溢れる青果は沢山ある。そ



う。大学で部活動を行なう者は高校時代より激減するだろう。従って便利な食生活に飛びつき易い。将来の日本を担う青年が抵抗力のないモヤシでは困る。日本には四季がある。冬に寒冷に耐えた雪中の大根を食い、夏に灼熱の陽を吸い込んだ南瓜を食う季節感溢れる青果は沢山ある。そ



う。大学で部活動を行なう者は高校時代より激減するだろう。従って便利な食生活に飛びつき易い。将来の日本を担う青年が抵抗力のないモヤシでは困る。日本には四季がある。冬に寒冷に耐えた雪中の大根を食い、夏に灼熱の陽を吸い込んだ南瓜を食う季節感溢れる青果は沢山ある。そ



う。大学で部活動を行なう者は高校時代より激減するだろう。従って便利な食生活に飛びつき易い。将来の日本を担う青年が抵抗力のないモヤシでは困る。日本には四季がある。冬に寒冷に耐えた雪中の大根を食い、夏に灼熱の陽を吸い込んだ南瓜を食う季節感溢れる青果は沢山ある。そ



う。大学で部活動を行なう者は高校時代より激減するだろう。従って便利な食生活に飛びつき易い。将来の日本を担う青年が抵抗力のないモヤシでは困る。日本には四季がある。冬に寒冷に耐えた雪中の大根を食い、夏に灼熱の陽を吸い込んだ南瓜を食う季節感溢れる青果は沢山ある。そ

## 自然の恵みを糧とせよ

### 二つの提言

### あらたな出発に望む

### 「大型鈍才」に期待

### △成りきる心

NHK特波員報告「わが友ボコト族」なるテレビ番組を観た諸君

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

へ

さて、やがては世の「心棒」となられる諸君。「潤滑剤」にはユーモアに富む「言葉」を以てしてはいかがかな。その為には日頃、「辞書」に親しむことだ。そして精々自分の辞書を「作る」ことだし、「作る」にはそれなりのシンボウが必要な事、勿論だがね。

それだけ読んでも実に面白い品物なのだ。無論、拾い読みで結構。「読む」深さに伴い、興味はますます深まってくる。何せ、そこにはわれわれの言語生活のあらゆる相が語られているのだから。

しかし、諸君。それ以上に愉しいことがあるんだなア。それは自分で辞書を「作る」ことなのだ。

——なに、作るなんてとんでもないだつて？ まあ、そうムキにならない。一語だけ披露する

辞書を一作る



高橋 勇

人に皆美しき種子あり

安積得也のこの詩は、私の諸君に期待する気持ちでもある。どんな人間にも、そのひとだけにしかない個性や、かくれた才能がある。ましてや南高を巣立つ諸君においておやである。

自分を客観的に見つめ、これぞと思う個性や才能を大いに伸ばしてほしい。そして美しい花を咲かせるのだ。私でさえも、髪はだめだが、髭は伸ばせるのだから。

、  
自分を客観的にとらえた時である。  
、  
はきだめに えんどう豆咲き  
泥池から 薙の花が育つ  
人皆美しき種子あり  
明日 何が咲くか

私は、元旦を期して鏡を伸ばし始めたが、それからは、いままであまり用のなかつた鏡とよく対面するようになった。

鏡をみているうちに笑いが込み上げてくる。みれば見るほど、おかしな顔におかしな髭である。自分でもそう思うのだから、他人様が笑うのは当然のことである。  
しかし、一つの 笈見があつて、

佐々木周學

## 今年度の大学志願状況について



公立大学		
大学	昨年	今年
高崎経大	11	17
都留文科大	3	5
都立大	4	3
その他	5	9
計	23	34

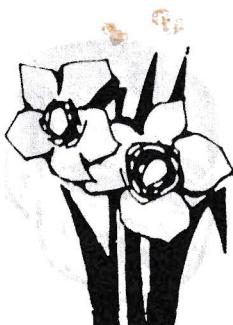
私立大学		
大学	昨年	今年
明治大	61	76
法政大	60	87
東北学院大	41	40
中央大	34	27
東京理科大	30	21
東洋大	30	20
専修大	29	25
青山学院大	22	12
明治学院大	21	5
神奈川大	20	50
日本大	19	39
国学院大	16	12
立命館大	17	9
慶應大	12	5
工学院大	11	13
駒沢大	10	28
その他		
計	664	773

国立(一期)大学		
大学	昨年	今年
北海道大	4	5
鹿児島大	29	33
東北大	23	19
新潟大	33	37
筑波大	10	15
千葉大	22	15
その他	4	6
計	125	130

国立(二期)大学		
大学	昨年	今年
山形大	179	193
人文	29	28
教育	56	70
理	16	15
工	65	53
農	13	23
医	0	3
その他	25	35
計	205	228

( S , 52 , 1 , 24  
現在 )



あとがき



(大江先生撮影)

卒業生歓送会

盛況裡におわる

一月三十一日、恒例の卒業生歓送会が催された。一年、二年の在校生たちは、兄貴らの門出を祝福し、その多幸を祈つて、歌に寸劇に演舞にと、思いこらした出しものを作りひろげ、体育館は拍手と爆笑で満まいた。

三年生担任教師団の演出は、卒業生全員の大学入試合格と活躍を祈願しての神仏習合的セレモニーで、阿弥陀・觀音・大日如来やら文殊その他の教科菩薩多數の来迎のもと、泉神宮のおごそかな祝詞を賜り、神酒の杯を受けた生徒衆総代の手も、感激にふるえがちであつた。もつとも、その中身は冷水であつたが—。